

談論

昔、神様が世界中の赤い花を集められた時に目立たない野に咲くこの花には気が付かれなかった。華やかな赤い花が咲きほこる中でこの花はつぶやいた。

「吾もまた紅（くれない）なり」と。南アで行われた今年のワールドカップはスペインの優勝で幕を閉じたが、去年のワールド・ベースボール・クラシック（WBC）での忘れられないエピソードがある。

イチローに「負ければ地獄、勝てば天

国」と言わせた屋ぶちの2次ラウンド敗者復活2回戦の出来事である。勝った方が準決勝進出を決める「日本対キューバ」戦で4回表の侍ジャパンの攻撃、小笠原の大飛球をセ

ンターのセス・ペデス選手が落球した。この試合でこの落球が試合の流れを変えてしまった。一気に侍二ツポンが上げ潮ムードになった一球の恐ろしさであった。

日本はラッキーにも敗者復活戦を制して優勝戦にろうじて残り、なんと奇跡的に韓国を押さえて優勝したが、この落球がなければ優勝の行方は判らなかつ

た。試合開始前から場内に立ちこめた夜霧が影響したこともあるが、実はセス・ペデス選手のクラブには「穴が開いていた」と日本選手が証言しているのだ。明らか

続・吾亦紅④

「WBCの陰に咲く花」



中村 繁夫

手が監督に激しく抗議をしていた。内容は不明だが、ともかくベンチでもめていた事は中継にも写っていた。このベンチの抗議はキューバ選手に溜まりに溜まっ

ていた不満を監督に吐き出したのではないかと思われた。本当に穴が開いていたかは別にして、メンテナン

スが出て来ないほどに使い込んでいたクラブだった事は想像に難くない。豊かな時代にスポーツが出来る日本人選手と、赤貧の中で

スポーツを生活の手段として選んだキューバ選手との落差には、余りにも痛ましい気持ちを持つのは筆者だけではないはずだ。貧困生活から這い上がるために

（米国からスカウトされる事を夢見て）日々練習に励んでいたキューバ選手に同情するが、彼らのスポーツマンシップの精神は逆に日本選手が学ばなければなら

ない。それは、06年のWBCで日本とキューバが決勝戦まで勝ち残り、日本がキューバを破って優勝した時のエピソードである。たまたま日本が優勝した次の日に在

東京キューバ大使閣下に会う機会があった。大使曰く、「昨日は実に良い試合だった。日本チームは素晴らしいチームだ。キューバは残念ながら負けたが次回の試合では勝つよ！」と。

すがすがしいエールの言葉が忘れられない。日本の優勝に文句をつけた韓国チームと較べると正にスポーツの本質を喝破した印象的なコメントである。

夢破れ 南の島に吾亦紅

アドバンスト
マテリアル
ジャパン社長